

第2回 福知山市新文化ホール整備基本構想・基本計画検討委員会

会議録【概要】

【日時】 令和4年8月23日（火）9:30～11:30

【場所】 福知山市厚生会館 中会場

【出席者】（委員）13名、内2名オンライン参加

（事務局）地域振興部 大西部長

文化・スポーツ振興課 森田次長、西村担当課長

西村課長補佐、増田主事

シアターワークショップ 伊東、佐藤、長谷川

（関係課）建築住宅課 中川次長

都市・交通課 芦田担当課長

1 開会

2 開会挨拶

3 協議事項

（1）前回委員会のまとめと質問事項の確認

（2）市内及び近隣市町ホールの現状

（3）市民意見の収集状況 ヒアリング結果（中間報告）

（4）市民意見の収集状況 Web アンケート

（5）新文化ホールの役割（案）

4 その他

5 閉会

【議事】

（1）前回委員会のまとめと質問事項の確認

○事務局より説明

委員：なぜ今この議論が必要なのかという点を確認したい。厚生会館を解体するのみでも（新文化ホールを建設しなくても）良いのではないかという意見も市民の声として実際にあるため、事務局の方針を伺いたい。

事務局：ひとつは老朽化の進行。また、文化振興基本方針において、新しいホールの建築を検討していくと記している。基本方針として挙げている9つの施策に取り組んでいくために、拠点となる施設が必要と考え、この検討委員会を開催している。

委員：前向きに検討していくという姿勢は変わらないが、市民ニーズを把握した上で検討すると基本方針には書いてあり、その市民ニーズの取り方の中で、前向きではない意見も把握する必要がある。

事務局：ヒアリング、Web アンケート、市民ワークショップで様々な意見を聴取していく中で、一部反対の意見も出るかと思うが、施設を作ることは前提条件としつつ、そういう意見も聴取し、参考とする。

委員：市民にいかに丁寧に説明していくかが重要となる。

委員長：4 ページの基本構想・基本計画における検討事項において、「ハードの視点が主で、ソフトの視点も検討が必要」とあるが、「ソフトの視点こそ」というのが前回の会議での意見であった。また、「近隣施設」ではなく「市内類似施設」だろう。それらの施設の利用を見極めていくことが重要である。現状の建物がどういう時代に建てられて、どう使われてきたのか、市内類似施設の活動状況を見極めていくことが大事である。利用頻度が高い市内類似施設の設置前後で活動が変化したかどうかを比較する等の分析も必要である。

委員：厚生会館の老朽化に関して、普段の管理体制に疑問がある。雨漏り等に対し、緊急修繕で対応してきたのか。普段の管理体制が新ホールの管理にも関わってくるため、水害の多い福知山で管理体制がどうなっているか伺いたい。また、どれほどの予算規模なのか。

事務局：管理は市の直営。本年度の管理運営予算は 1,500 万円程度である。設備等については専門業者に点検を依頼している。大規模改修以降、経費のかかる大きな改修は難しく、予算の範囲内でなんとか運営をしているという状況。危険の伴うものについては予算をとるようにしているものの、雨漏りについては根本的な改善は難しい。

(2) 市内及び近隣市町ホールの現状

○事務局より説明

(3) 市民意見の収集状況 ヒアリング結果 (中間報告)

○事務局より説明

委員長：(2) と (3) は関連していたため続けて説明していただいた。

委員：ヒアリングに参加した文化協会の会員団体から、何を話したら良いかわからなかったという感想を聞いた。もっと思っていることがあるということの裏返しではないかと思う。

委員：5 回のうち 4 回のヒアリングを傍聴した。様々な団体が参加し、様々なニーズが寄せられた。市の行政として、福知山市の文化がどういうものであるかを明確にするべきである。また、25 ページの 1 に、市文化協会と旧三町の文化協会が文協フェスタを実施しているとあるが、文協フェスタは福知山市文化協会が実施している。

委員：17 ページのポジショニングマップでは、縦軸が席数、横軸が地理的状況となっているが、各施設の役割はそれぞれで、横軸を施設の意味付けで分類するのが望ましい。

委員：各施設の意味付けがないというのが福知山市の現状であると思う。意味付けとして

はマップの通り横並びとなっているのが現状。新文化ホールでは市内全域での連携も含めて考えていく必要があるだろう。

委員長：文化団体といっても様々であるため、一括りとするのは望ましくない。また、ヒアリングでは、施設に寄りかちな話になっている。これから将来に向けての方向性を語っていただかなくてはならない。関心を持ってもらうためにはどういうことをすれば良いのかということを引き出していないと、「若い人たちに文化を届けられる施設に」という合言葉で終わってしまう。将来に向けてどういった活動を展開したいんだということを引き出さないとヒアリングをしている意味が薄れる。

15 ページに市内施設、近隣施設で行われている「練習」にしても、各施設での違いを分析することが重要である。市民交流プラザでの活動は、他の施設よりも利用率が群を抜いて高い。施設ができたことにより生まれた活動があるかも知れないし、活発化した活動があるかも知れない。データがあれば市民交流プラザ設置前後の活動を分析・比較していただきたい。

委員：様々なイベントに取り組んでいる市民の思いがある。主催者の思いに応える市の専門スタッフの常駐が重要である。駐車場の不便さについても、ヒアリング結果に主催者側の不満が表れている。

委員長：8 ページの厚生会館の利用内容で、備考欄の催事利用者数は平均 500 人程度とあるが大規模な展示も含まれるか。

事務局：大規模な展示や設営等は含まれない。

委員長：大規模な展示等の主催者へのヒアリングはしたか。

事務局：一部はヒアリング対象となっている。収容人数が多い事業はほとんどが平土間利用で人が入れ替わりで利用している団体である。

委員長：利用日数 129 日の内、有料/無料公演の割合はわかるか。

事務局：調査する。

委員：厚生会館は展示利用等、通常の舞台とは違う使い方がされていることが多いため、集計が難しいのではないか。

(4) 市民意見の収集状況 Web アンケート

○事務局より説明

(5) 新文化ホールの役割 (案)

○事務局より説明

委員：市の「文化振興基本方針」に「民間活力を導入することを検討する」(42 ページ)とあるが、具体的にはどういう形を考えているか。

事務局：導入可能性も含めて具体的には今後検討していく。

委員：民間活力の導入にもふたつの形がある。ひとつは指定管理や PFI といった形で、20 年程で良い面と悪い面が見えてきている。もうひとつは、市民と一緒に作って

いくような形。市民が自分たちのやりたいことだけでなく、政策目的に参加していくような形。

委員長：後者は非常に努力の要る取り組みである。金沢芸術村等の事例がある。市民の力が重要な活力になる。

委員：黒部市のコラーレも、20年程前の開館当初から市民参画が現在まで続いている。逆に職員がなかなか育たないという問題があるように思われる。

委員：「文化振興基本方針」施策にある「老朽化している他の施設」（42ページ）とはどの施設を指しているか。

事務局：建物全体ではなく一部の部屋のみでも、可能な限り機能を集約するという考えであるが、現段階では具体的に特定の他施設の機能を集約する予定はない。

委員長：新文化ホールの役割について、内容は良いものだが、全て実施できるのか。鑑賞機会をつくるための予算や、次世代の支援のための指導者のサポートが必要となる。気軽に文化活動に触れることができる、日常的に集まれるとなると、車でないと行けないとかアクセスの悪いところでは難しい。そういったことを見通しても問題ないか。まちづくりへの寄与という項目の中で災害にも関連付け、施設が意味のあるものとなっていくのが良いのではないか。また、基礎調査に関して、施設に寄った視点だけでなく活動の現況についてもフォーカスすべきだろう。

委員：ホールは市の文化政策の頭目である。「（1）文化芸術鑑賞機会の充実」とあるが、鑑賞以外にも芸術に触れる様々な機会を作るのが大事な役割であろう。「（2）次世代の活動支援・人材の育成」のためには、そのための仕組みを作っていかなければならない。「（3）市民の文化活動・交流拠点の創出」と「（4）日常的なにぎわいの創出」はひとつにまとめても良いのではないか。広場機能は交流が作られていくきっかけを作る機能は非常に重要である。「（6）まちづくりへの寄与」という点に、水害リスクを考えると「安心・安全」ということを入れておくのが良いのではないか。

4 その他

事務局：8月29日、30日にグループヒアリング、個別ヒアリングを追加開催する。

次回検討委員会：令和4年9月20日（火）午後2:00～午後4:00

場所：福知山市厚生会館中会場

5 閉会

以上